議案第 74 号　財産（絵画）の処分について　質　疑

植田　通孝 議員
（自民の風・誠真会）

問 白髪一雄画伯の絵画「タジカラ男」の処分について、お尋ねします。この絵画は、平成元年の新庁舎の完成に合わせて、市役所の雰囲気を文化の薫りが漂うミュージアム風にするために購入した数十点の絵画の内の一点で、力強い作品です。先般、サザビーズパリのオークションにおいて５億数千万円で落札された絵画「激動する赤」（1969 年作）と同じ年に描かれたものです。

また、白髪一雄画伯の絵は、世界 70 か国に２万４千店舗を展開しているスターバックスコーヒーカンパニーの CEO の社長室にもかけられているそうです。

こうした高い評価を受けている白髪画伯の絵を、加西市が２点も所有していることは、市民の誇りであり、素晴らしい貴重な芸術文化資源に恵まれているのです。地方創生の時代、各市町が持つ貴重な資源を有効に活用して地域を盛り上げなければ置いていかれる時代です。

上越市では、市民団体が市民から浄財を募り、上杉謙信公の愛刀「山鳥毛一文字」を３億２千万円で買い戻そうと活動されています。市のシンボルとして、地域おこしをするためです。

それに反して、加西市では貴重な芸術文化資源を「地域おこし」に有効に利用することを考えずに、みすみすオークションで売り払おうとする本当の理由と換金後の充当先をお尋ねします。

答 庁舎の美術倉庫では十分な管理ができず劣化が激しいので、今後の劣化の進行も予測し、今が一番国内外を通じてより多くの方々に、絵の価値を見ていただきたいということで、売却することにしたものです。そして、今回の売却益を何か特定のものの財源に使うということを想定して行うものではございません。

問 管理は十分であったか。

答 美術品専用の湿度も含めた管理はできていませんでした。

河川堤防の除草作業について　一般質問

松尾　幸宏 議員
（自民の風・誠真会）

問 加古川支流の堤防はその町の方が、除草などの奉仕作業をされているが、重労働の上、マムシや蜂による被害もある。加えて近年高齢者世帯がふえて人員の確保も困難となり、自費で業者に一部委託するなど、各町大変苦労していると聞くが、その現状について。

答 兵庫県と加西市で河川環境美化事業として、「市街地河川を守る会」の８つの自治会に、堆積物やごみの撤去、草刈り等をお願いしています。また、「河川を守る会」の 69 町に、調整区域内の河川の堤防の草刈りを中心とした作業をお願いしています。そして、兵庫県のアドプト制度により３団体が堤防の桜の剪定や草刈りをされており、この３つの組織をもって市内 15 の河川、総延長 70 キロメートルの管理をお願いしています。

問 各自治会に手当てされている補助金は十分ではなく、また、作業者の高齢化をはじめ、自治会によって作業難度の違いがあり、単に延長で算出される補助金では不満を感じるなど様々な問題があると思われるが、加西市としての対応策をお聞きしたい。

答 補助金は平成 27 年度決算で総額 810 万円となっています。内訳は、市街地河川を守る会に定額 50 万円。河川を守る会 69 町に対して、660 万円と除草剤（74 万円余）の提供と全町傷害保険に加入しています。

補助金の増額によって、一部民間委託や、機械化で対応したいという要望もいただいており、今後の課題として対応したいと考えています。

また、各地域により法面状況等の条件が異なるため、負担軽減につながる体制づくりや、近隣同士・法人化された営農組合との協力体制等の提案も含めて地元との協議を進めていきたいと考えています。

■その他の質問項目

- 市内小中学校の生徒数の推移について